

4年ぶりに
対面開催

2023年<第25期>通常総会



総会には来賓として畠中源一京丹波町長を招きました。来賓挨拶の中で、町長は高齢化と人口減少が深刻化する地域の現状について触れ、クローバー・サービスへの期待を語りました(写真)。

5月27日(土)京丹波町商工会瑞穂支所にて第25期通常総会を開催しました。4年ぶりの対面開催には、65名の正会員のうち本人出席27名・書面評決24名・委任2名があり、全ての議案を原案通り可決しました。

▶2022年度事業報告

長引くコロナ禍の中で過去2年より深刻な感染状況が続き、職員や利用者に感染者が相次ぐ時期があった。職員の配置に苦慮する場面がみられたが、感染予防徹底の効果もあり大規模な感染にはいたらず、事業を停止することなく年度を終えることができた。

また燃料・物品・食材費等の物価高にも苦しめられた。こうした状況の対策として京都府や、京丹波町から補助金を受けることができた。

※4面に続く

2022年度決算の概要 (単位:円)

経常収益		
会費		451,000
寄付金		264,132
助成金・補助金		524,000
事業収益		86,106,075
その他収益		39,603
計		87,384,810
経常費用		
事業費	人件費	66,194,818
	その他経費	13,060,734
管理費	人件費	5,046,600
	その他経費	1,740,706
計		86,042,858
差引(税引き前)		1,341,952

NPO法人クローバー・サービス

京都府船井郡京丹波町橋爪楡山 53
 ■TEL (0771)88-5014 / ■FAX (0771)88-5017
 ■e-mail: info@cloverservice.or.jp
 ■ホームページ http://www.cloverservice.or.jp

クローバー・デイサービスセンター

京都府船井郡京丹波町橋爪楡山 41-1
 ■TEL & FAX (0771)88-0138
 ■e-mail: day@cloverservice.or.jp



facebook QR

映画・本・歴史のこと



〈第4回〉

有田誠(ありたまこと)京丹波町在住の映画愛好家。写真は北朝鮮新義州の人々(2012年夏、鴨緑江対岸の中国丹東側から筆者撮影)

本多猪四郎と円谷英二

イギリスで最も多くの作品が上映された日本の監督は誰だろうと思いたった。ロンドンの王立映画協会内の図書室で調べてみた。黒澤、成瀬、溝口、小津と名前が浮かぶ。とこ

ろが意外というか当然と
いうか、本多猪四郎だった。
昭和三、四十年代に子供
時代をすごした人なら、東
宝の怪獣映画のタイトル
の最後に監督として名前
が出ていた記憶があるは
ずである。一九一一年、山

形生まれ。黒澤明と同期で、晩年の黒澤作品では『まあだだよ』(一九九三)まで演出を手伝っている。

十年早く一九〇一年、福島で円谷英二が誕生した。本多監督が本編部分、円谷特技監督が特撮部分を担当した。

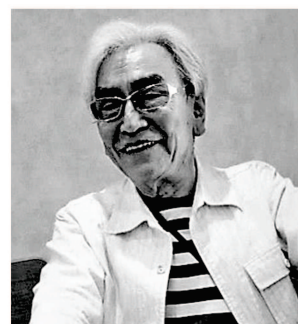
宮崎駿と同じく飛行機好きで、山本嘉次郎の『ハワイ・マレー沖海戦』(一九四二)は代表作の一つである。戦意高揚映画や陸海軍の囑託だったことなどから戦後は公職追放指定を受けていた。大庭秀雄の『君の名は・第一部』(一九五三)の東京大空襲の特撮も円谷英二である。そのまま翌年の『ゴジラ』に使えそうな仕上がりがた。

中野昭慶

なかのてるよし
本編と特撮は合成など別撮り部分をつなぎ合わせることになる。その調整役として走り回るうちに、円谷監督の指名で助手となったのが中野昭慶である。『妖星ゴラス』(一九六二)から円谷遺作の『日本海大海戦』(一九六九)まで師事する。『日本沈没』から特技監督として活躍した。昨年(二〇二二)の六月に亡



円谷英二(左 1901~1970)と本多猪四郎(1911~1993)



中野昭慶(1935~2022)

くなくなったが、満洲は安東(現・丹東)の生まれである。父親が満鉄の仕事をしていたため、一九三五年の誕生から十一年間をそこで暮らしている。
森谷司朗『日本沈没』

東宝の特撮技術については、『007』のスタッフも現場を見学している。東宝のミニチュアは板とブリキ製なのを見て、型を造り流し込んで作っていたイギリス側は感心したらしい。ロジャー・ムーア版『007』の宇宙船や潜水艦は、東宝のミニチュアを思わせる。



『日本沈没』東京大地震シーンのセット(筆者撮影)

日本橋方向に広がる隅田川沿いの大ミニチュアセットの地震シーン撮影に居合わせたことがある。永代橋をピアノ線で支えて、大地震とともに崩落させる。下に古タイヤを敷き詰めた高校の体育館よりも大きなミニチュアセットである。中野監督の「ヨイ、スタート」とともに、それをヴァイブレーターで揺らす。火薬を爆発させ、

督がひと言「失敗した」。完成作品を見るとこの場面は三秒しか使われていなかった。莫大なお金と時間をかけて、何ともゼイタクな話した。半世紀たっても忘れない大学四年の夏の経験である。

スモークを焚く。本番一発勝負だ。張りつめた空気の中、複数のカメラがまわる。橋上にはミニチュアの自動車は何台も走っている。それらが次々と落下していく。ところがスモークを焚きすぎて、ステージ内が真っ暗になった。「落ち着いて避難してください」の声とともに外に出たスタッフは煤煙で顔が黒くなっていた。中野監督がひと言「失敗した」。完成作品を見るとこの場面は三秒しか使われていなかった。莫大なお金と時間をかけて、何ともゼイタクな話した。半世紀たっても忘れない大学四年の夏の経験である。

『日本沈没』は大ヒットした。七十年代前半は終末思想がはやり、公害、食糧危機、地震に多くの人がおびえていた。作家では野坂昭如や井上ひさしがその論陣をはっていた。今はさらに問題は深刻化しているが、人々は鈍化してのどかなものだ。

なお、映画で地球物理学者田所博士役の小林桂樹は、翌年の「男はつらいよ 葛飾立志編」でも考古学者田所教授を演じている。

北朝鮮映画『プルガサリ』

金正恩キムジョンウンの父金正日キムジョンイルは大の映画ファンであった。『ゴジラ』のような娯楽映画を作りたいたいというところから話は動き出す。企画は朝鮮総連を通して、東宝、中野昭慶のもとに届いた。映画は朝鮮民話にある圧

政に苦しむ民衆を救う鉄を食う怪物の物語に煮詰まってくる。大映の『大魔神』(二九六六)に似ている。監督は申相玉シンサンオク。何と女優の崔銀姫チェウインギと夫婦で拉致された韓国の大監督である。一九八六年、ウィーンで西側に亡命するまで八年間、ピョンヤンで映画製作を命じられた。

映画は北京とピョンヤンで撮影された。日本のスタッフは十五名、プルガサリの着ぐるみは、『ゴジラ』以来の中島春雄を継いだ薩摩剣八郎である。

着ぐるみ、実物大の足、火薬などは例の万景峰号マンギンボンで運ばれた。エキストラに六百人ほしいと言えば千五百人來たり、金正日の指示のもと、何でも通つたらしい。ただし、日本からの



北朝鮮映画の『プルガサリ』(1985)

十五名の名前はクレジツトされていない。申監督も翌年亡命したため、監督はチョン・ゴンジョと別人になっている。まだ小さいプルガサリを布団で寝かせている可愛らしい場面が印象に残る。

崔銀姫、申相玉夫妻の拉致から亡命までの顛末は、二人の手記『闇からの罅こだま』(上・下) (文春文庫一九八八)に詳しい。二人の亡命の記録映画も数年前に見たが、題名は失念した。

【報告】2022年度〈第25期〉通常総会

▶コロナ禍でも前年度と同様の利用

助け合い事業、障害者居宅介護は前年より2割ほど利用が増加。外出支援も走行距離が1割ほど増えた。介護保険事業はケアマネジャーが前年より少し利用減となったが、訪問介護が数年ぶりに利用増となり、デイサービスも前年度を少し上回った。

コロナ禍ではあったが、各部門とも大きな影響を受けることなく、ほぼ前年同様の利用量となった。

▶外出支援、遠方への送迎が増加

年々、町外の医療機関への送迎が増えており、利用者一人当たりの走行距離が増加。京都市内の病院への送迎も少なからずあり、運転員の確保や配車に苦慮した。免許返納される方も増え、交通公共機関の減便や、撤退などの問題もあり、今後ますます交通弱者の支えとなる外出支援の役割は大きい。

▶2023年度は法人設立25周年目

四半世紀にわたって活動を持続してこれたが、この間に少子高齢化、人口減少はますます進み、住民同士がお互いに「助け合う」力は減少してきている。

そんな中で私たちの行う介護サービスなどの活動は社会的に必要不可欠であり、次の25年に向け、持続可能な環境を整えていくのはもちろん、次世代の中心的な担い手となる人材育成も進めていかなければならない。

▶訪問ヘルパー不足が課題

訪問ヘルパーが全国的に不足しており、当事業所についても例外ではなく、職員同士協力、助け合いながら活動を行ってはいるが、人員の確保は重要な課題であり、新規採用はもちろん、定年延長などあらゆる手段を講じて増員を図っていきたい。

▶今後も感染症対策を徹底する

新型コロナは第5類に引き下げられたが、引き続き感染症対策につとめ、今まで通りの警戒態勢で予防を徹底する。

▶新たな事業の調査研究を進める

カフェ事業は前年度内で常設事業としては打ち切った。引き続き、認知症カフェを含め、新たな事業の開拓についても調査・研究を進めていく。

＜**賛助会員**＞

- (有)あさひ堂
- (株)一谷住宅
- イン・ザ・ルーム亀岡店
- 上段税理士事務所
- (株)高木設備
- たにやま鍼灸接骨院
- 田端輪業
- (有)土佐寿司
- (有)永田損害保険事務所
- (有)西村テレビ
- 三木歯科医院
- みづぼ電工
- 理容ちどり

(五十音順)

編集後記

野山を散歩していると、季節ごとに色んな花を見かけます。私が好きなのが、田植え時期に見かけるタニウツギ(谷空木)で、緑に囲まれた山道にピンク色の花が連なる様子はとても綺麗で気持ちがいいです。▼ウツギの仲間は様々ありますが、その語源は、枝が空洞(ストロー状)になっていることから、空の木と書いてウツギと読みます。▼また別名卯(う)の花ともいい、古くは「万葉集」にも歌われています。『霍公鳥(ほととぎす)来鳴き響(とよ)もす卯の花の共にや来しと問はましものを』作者は奈良時代の官吏・石上堅魚(いその)かみのかつお)です。『ほととぎすがやうてきて、鳴き声を響かせているよ。卯の花が咲くとともにやってきたのか、と聞いたいものだな』と詠んでいるのです。▼この歌ではほととぎすが登場していますが、南丹地域の一部ではタニウツギをカツコウ花と呼んでいるそうです。カツコウが鳴く頃に咲くのでそういえるのか。そういえば散歩中『カツコー・カツコー』と鳴き声を聞いた気がします。初夏を迎え夏が来たよーと、夏(カツ)来(コ)と教えてくれているんですかね? 聞きたいものです。

〈編集者〉